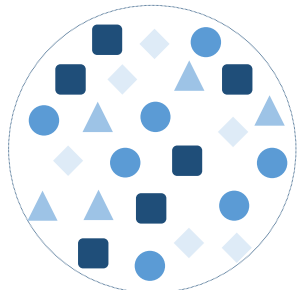


～薬が効かないのは薬剤耐性菌のせいかもしれません～

薬剤耐性菌

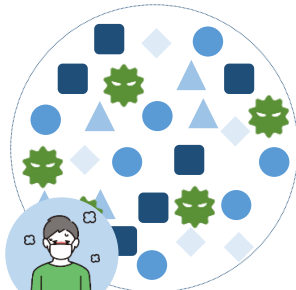
1 薬剤耐性菌が生まれるまで

① 通常時



体の中には様々な害のない細菌がいます

② 感染症発症



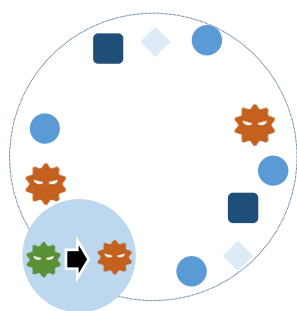
病原菌が増えて感染症を発症します

③ (抗生物質) 抗菌薬治療



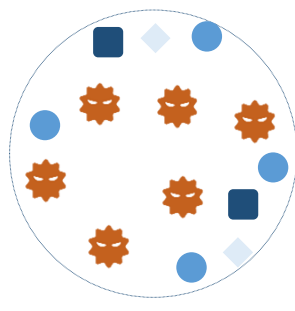
病原菌と共に害のない細菌も退治してしまいます

④ 薬剤耐性菌が残る



病原菌が変化して生まれた薬剤耐性菌が生き残ります

⑤ 薬剤耐性菌が増殖



体内に薬剤耐性菌が多数いる状態になります

2 薬剤耐性菌が増えることでの主な影響

- ▶ 効果が見込まれる薬が少なく、治療に時間がかかります。
- ▶ 抗菌薬が効かないと感染症の予防や治療が難しくなります。

3 今から出来る薬剤耐性予防



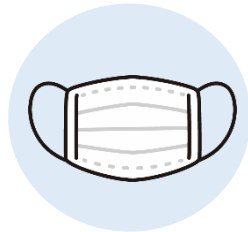
① 抗菌薬は医師の指示通り飲み切る



② 残った抗菌薬はあとで飲まない



③ 抗菌薬をあげない・もらわない

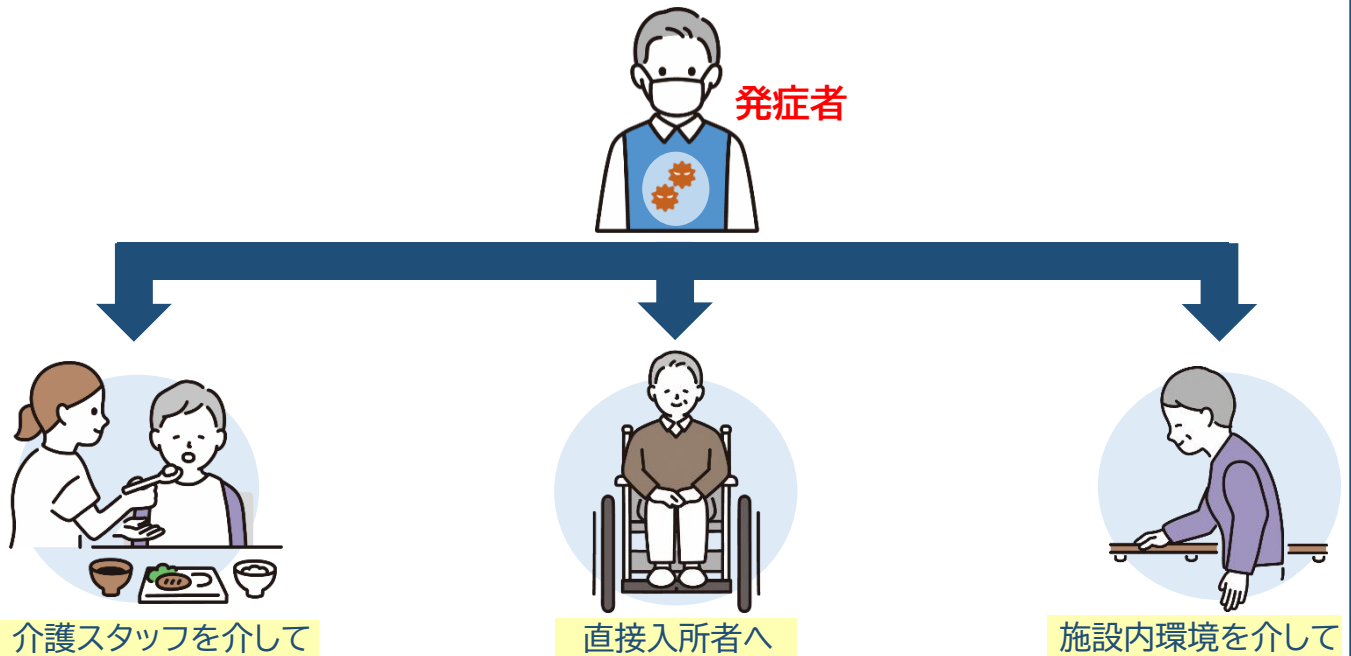


④ マスク・手洗いで予防しよう

高齢者施設における「薬剤耐性菌」対策

① 薬剤耐性菌の問題

- ❑ 薬剤耐性菌により感染症に罹ると治療が難しくなります。
- ❑ 施設内では薬剤耐性菌の拡大が深刻であり、自宅で生活している人と比較して有意に薬剤耐性菌を保有していることがわかっています。



② 保菌状態なら標準予防策

- ❑ 感染症を引き起こしていない『保菌』状態であれば、拡大リスクも低いので感染対策は標準予防策で十分です。
- ❑ 標準予防策が徹底されていれば、保菌者に制限を設けたり特別扱いする必要はありません。

標準予防策

- ▶ 手指衛生
- ▶ 個人防護具
- ▶ 咳エチケット
- ▶ 使用後リネンの適正な処理
- ▶ 使用後器材の適正な処理
- ▶ 環境整備 など

③ 症状に応じて接触感染予防

- ❑ 薬剤耐性菌の保菌者が発症した際は、接触感染予防策を行います。
- ❑ 咳や痰が多いなど、拡散リスクが高い場合は、個室を検討します。
- ❑ ケアや入浴を最後にしたり、使用物品等の消毒を実施してください。